

日本数学会教育委員会からの報告

【教育委員会】

日時：2015年3月23日（月）12:30～14:00

場所：明治大学駿河台キャンパス（リバティタワー）12階1121

数学教育学会から峰村勝弘氏（日本女子大学）がオブザーバー参加した。

次の様な議論があった。

1. （報告）理数系学会教育問題連絡会シンポジウムについて

2014年10月にシンポジウム「これからの理数系教育を考える」が開催された。

日本数学会からは、資料として『「大学生数学基本調査」に基づく数学教育への提言』を提出し、シンポジウムの予稿集に掲載された。

2. ICT リソース共有化についてのアンケート結果の活用について

2014年6月にアンケートを実施し、その結果は数学通信第19巻第4号に掲載された。そのなかで、外部からも資料の閲覧が可能なリソースをもつ学部等があった。そこで、当該部局に改めて確認をとった上で、資料のリストを数学通信に掲載したらどうかとの提案があり、議論を行った。資料の所在（URL等）については情報の日付を明記すること、資料の内容に関する問い合わせ先は数学会ではなくその資料をもつ部局とすること、資料の内容を項目別に表にまとめたリストを作成し確認をとることなどが提案され、これらの方針に沿ってリストの作成を進めることになった。

3. 次の学会（9月、京都産業大学）での教育シンポジウムについて

2015年度から新しい学習指導要領で学んだ学生が大学に入学することを受けて、大学の初年次教育（特に線形代数）に関する情報を共有し、可能であれば高等学校で数学を教える先生方も招いて新課程に関する評価を伺い、次の学習指導要領改訂に向けた議論を行うのはどうかという提案があった（牛瀧委員）。この提案に関して、大学側の対応についてアンケート調査を行うのであれば迅速に行う必要がある、線形代数に特化せずに調査を行ったらどうか、高等学校の先生方を招くのであれば日程に注意しなければならない、などの意見があり、これらを踏まえた上で提案に沿った内容のシンポジウムを開催することになった。

4. 次期委員について

次期（7月から）の委員長および委員の推薦に関して教育委員会内規を確認した。この機会に内規の見直しを行うのはどうかという意見があった。

5. 本日（3月23日）のシンポジウムについて

真島委員から本日のシンポジウムの進行について説明があった。

6. 数学教育学会からのオブザーバ参加および委員の推薦について

数学会の教育委員会の委員として、数学教育学会から推薦された数学会会員を受け入れるかどうかについて、十分な議論をする必要があるとの意見が多く、引き続き検討することになった。

7. 諸報告

海老原委員から、今年度の数学会への講演依頼について報告があった。

藤田委員から数学オリンピックに関する報告があった。2015年4月にベラルーシで開催されるヨーロッパ女子数学オリンピックに日本チームも参加する。

【シンポジウム「日本の算数・数学教育への提言に向けて」】

日時：2015年3月23日（月）14:30～16:30

場所：明治大学駿河台キャンパス（リバティタワー）2階1021

舟木直久日本数学会理事長（東京大学）の開会挨拶の後、以下の講演とパネルディスカッションが行われた。（以下敬称略）

1. 「グローバル化社会における日本の算数・数学教育への提言に向けて」の説明

第22期日本学術会議数理科学委員会数学教育分科会が2014年9月2日付けで発表した記録「グローバル化社会における日本の算数・数学教育への提言に向けて」（以下「記録」）について、以下のように説明が行われた。

真島秀行（お茶の水女子大学）

「記録」全般について

長崎栄三（国立教育政策研究所）

「記録」の項目1「グローバル化社会における日本の算数・数学の学びの構築」の内容について

渡辺美智子（慶応義塾大学）

「記録」の項目1（1）「算数・数学科における統計内容の充実」の内容について

森田康夫（東北大学）

「記録」の項目2（2）「高等学校カリキュラム」の内容について

その後、パネルディスカッションが行われた。

まず、高橋哲也教育委員会副委員長（大阪府立大学）から高等学校の新指導要領の課題に関する問題提起があり、続いて、長崎，渡辺，森田，高橋をパネリストとしてフロアを交えた討論が行われた。

フロアからは、

- ・ 数学教育のなかで人間形成的な目的を強く出していくことが重要ではないか
- ・ 文系の学生も指数関数を学ぶようにカリキュラムを編成できないか
- ・ 日本でもデータの統計処理の技術を十分に教えてほしい
- ・ 数学の系統性にこだわらず問題解決型の授業を行うべき
- ・ 数学を学ぶことに職業的な意義があることを学生は認識できていないのではないかなどの意見・質問があり、活発な意見交換が行われた。

参加者は約100名でした。なお、各講演者の講演資料は教育委員会のホームページ (<http://mathsoc.jp/comm/kyoiku/>) で公開されますので、ご参照ください。

文責 教育委員会2014年度委員長 宇野勝博